

高松市屋島陸上競技場の変遷

高松市屋島陸上競技場の変遷については、故香月義徳先生が精魂を傾け執筆された「高松市における陸上競技の歩み 上下巻」、「陸上競技聞いた話見た話」に記されている内容を参考にさせていただき、できる限り原文を活用させていただいた。それによると、現在の屋島陸上競技場は、大正 13 年 9 月 (1924 年)、9000 坪程度の広さのグラウンドとしてその地に産声を上げている。

それから 14 年後の昭和 13 年 7 月 (1938 年)、本県最初の 400m トラックを有する香川県営屋島総合グラウンドとして整備され、四国最大を誇る陸上競技場として様々な大会が開催されたことが記されている。

さらにそれから 15 年後の昭和 28 年 6 月 (1953 年)、第 8 回国民体育大会の陸上競技の開催を契機に、当時とすれば珍しいアンツーカーの走路をもった、近県に誇れる立派な第 1 種公認競技場として生まれ変わった。その姿のまま 20 年が経過した昭和 48 年から全天候舗装への部分的な改修が始まり、昭和 57 年には、すべてのアンツーカーが全天候舗装に整備された。そして、昭和 58 年 8 月 21 日、その地で、日本・中国・カナダ・アメリカ国際ジュニア陸上競技大会が開催された。その後、各県において全天候舗装の 400m 補助競技場を有する大きな競技場の建設が進み、やがて日本陸連の第 1 種公認競技場の条件が大きく変更された。中でも、第 3 種公認の補助競技場を有することが条件に付け加えられたことは致命的で、屋島は、ついに第 1 種公認資格を失うこととなった。また、ほぼ同時期、平成 9 年の全国インターハイの会場候補地の検討が進む中で、駐車場が手狭であることから屋島の改修案は認められず、丸亀市に第 1 種の県立公認競技場を建設することが決定した。そして、平成 9 年 (1997 年)、香川県立丸亀競技場の完成とともに、昭和 28 年以降 70 年に余る県営競技場の役割は丸亀競技場に移された。その後、「2 か所の県立施設をもたない」という香川県の意向により、屋島陸上競技場は、取り壊すか高松市の施設として存続するかの瀬戸際に立たされることとなった。

その後、平成 18 年 4 月 (2006 年) より、高松市屋島陸上競技場と改称され、高松市の施設として再スタートを切った。そして、時代とともに老朽化が進み、必然的に再整備の話が持ち上がり、平成 24 年 11 月、再整備に向け取り壊しが始まった。また水面下では、様々な難題が次から次へと発現し、その度に当初の設計は変更を繰り返し、いよいよ平成 26 年 4 月、再整備工事がスタートした。それから 3 年後の平成 29 年 4 月 (2017 年)、ついに日本で初めての室内競技場を併設した陸上競技場は完成を見た。その施設は、屋島レクザムフィールドと名付けられた。

(年齢 80 歳を超える香月先生は、ご老体にもかかわらず、お亡くなりになられる少し前、当時の私の勤務先であった高松市役所 10 階に突然来られた。「これを渡しに来た」と言いながらおもむろに「高松市における陸上競技の歩み 上下巻」、「陸上競技聞いた話見た話」等を風呂敷から出された。ありがたく頂戴したものの、これまで、慌ただしさにまぎれて置き去りにしていた。競技場のオープンに際し、その変遷を知ろうと思いたち、はじめて目を通すことになった。もしこれがなかったら…」と思うと香月先生の残された功績に改めて感銘を受けた次第である。この資料をきっかけとし、香月先生のご功績の一端が広く理解されれば幸いである。)

本書の文責：三宅 章夫

1 屋島グラウンド(四水屋島グラウンド)

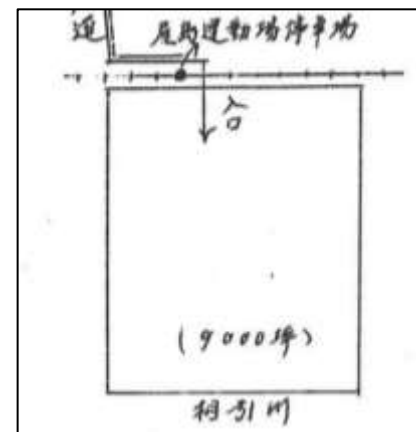
大正 13 年 6 月に起工し、同年 9 月に野球・庭球・陸上競技の総合グラウンドとして完成した。

古老の話では、競馬も 2~3 回行われたようである。

広さ：約 9000 坪 (約 29,700 m²)

大会：大正 13 年 10 月に第 1 回明治神宮競技大会四国予選陸上競技大会が行われた。

※ 屋島運動場駐車場 (通称：屋島停留所) は、現在の湊元・屋島駅のほぼ中間、屋島樹園の約 20m 東にあった。

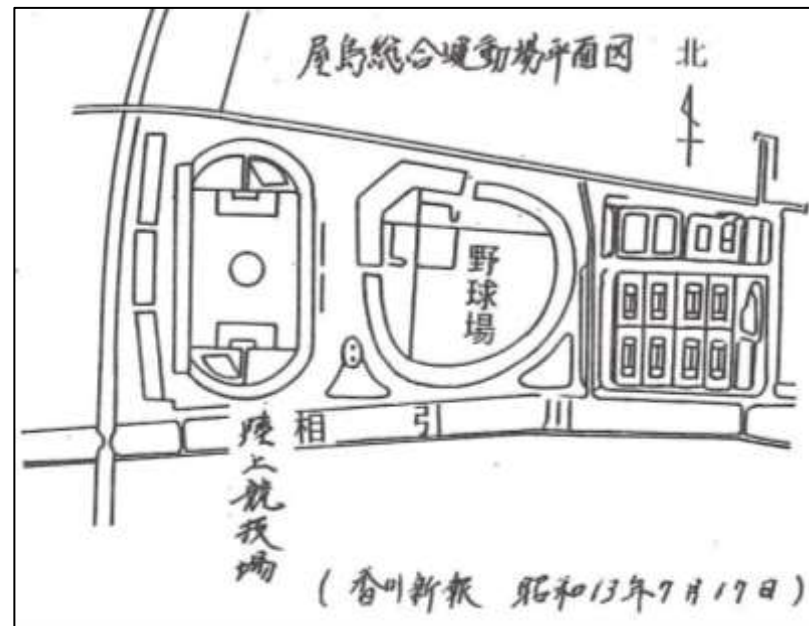


2 香川県営屋島総合グラウンド

屋島グラウンドは荒廃し、グラウンド前にあった駐車場も廃止されていたが、厚生省の「人口5万人以上の都市には一つの総合グラウンドを整備する」という政策に拠って昭和13年7月、県立施設として香川県営屋島総合グラウンドが建設された。

敷地面積は、約21,600坪（712.8アール） 総合グラウンドのうち陸上競技場は、四国最大を誇るものであり（本県では最初の400mトラックを有する競技場）早速、昭和13年9月11日四国4県陸上競技選手権大会兼日本陸上競技選手権大会四国予選会が盛大に行われた。

収容人員は、スタンド3000人、芝生10000人、計13000人であった。



3 香川県営屋島陸上競技場



第八回国民体育大会屋島陸上競技場開会式風景

香川県営屋島陸上競技場は、第8回国民体育大会の陸上競技場として、県民の熱意を背景に、香川県と高松市によって構成された建設委員会により造築された。当時としては珍しいアンツーカーの走路をもち、近県に誇り得る立派な競技場として昭和28年6月1日、日本陸上競技

連盟により第1種に公認された。

昭和48年頃から徐々に採用された全天候舗装は、昭和57年に新工事や改修工事が終了し、昭和58年8月21日、日本・中国・カナダ・アメリカ国際ジュニア陸上競技大会が行われた。

屋島陸上競技場は、歴史に裏打ちされ、卓越した風景の上、交通の便が極めてよく、(四国随一との声が高い) 恵まれた気象条件の援護もあり、全国の陸上競技人に知られている。

又、本県陸上競技発展の根本であり、本陸上競技場とのかかわりにおいて本県から数多くの有名陸上競技人が輩出している。

特に、明善高等学校は高校の全国制覇、その他輝かしい成績を挙げ、県中学校は永年にわたり全国中学校陸上競技界の牽引力とうたわれ、小学校も最近の全国大会において、全国の耳目を集めるに至っている。

香川県の陸上競技人にとり、母なる競技場として親しまれてきた屋島陸上競技場は、高松周辺ばかりでなく、広く県内各団体から各種運動会に利用され、陸上競技とは別な立場で忘れ得ぬ貢献をしている。



【日本・中国・カナダ・アメリカ国際ジュニア陸上競技大会】

4 高松市屋島陸上競技場



5 最後の雄姿



タータン剥がし工事 photo

6 更地になった競技場跡地

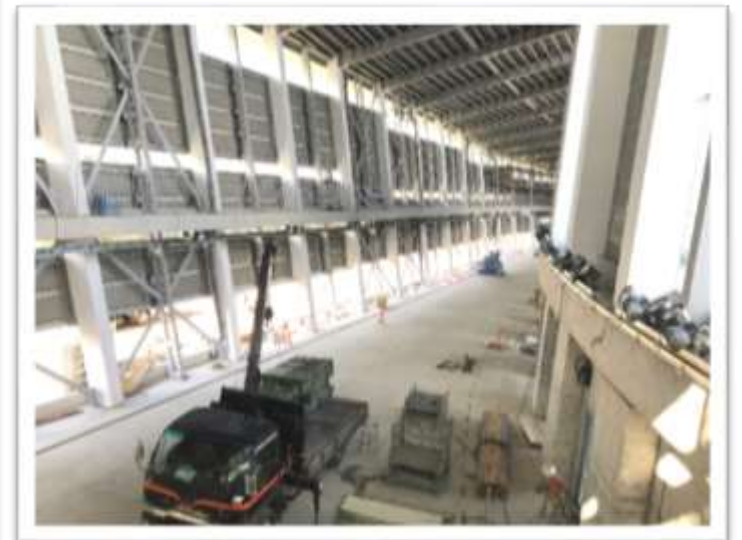


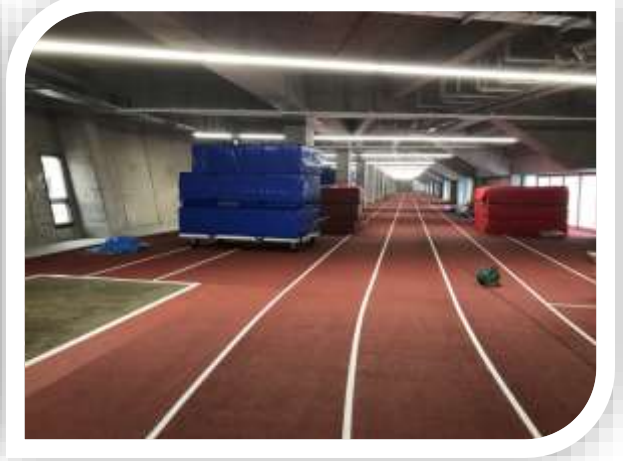
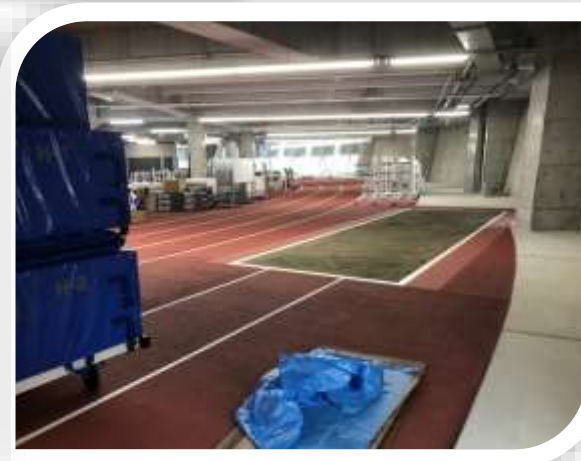
7 高松市屋島競技場(屋島レクザムフィールド)

① 起工式 → 現場監督宮武さん → 全容が見えはじめるまで



② 室内陸上競技場





③ 補助競技場及びその周辺



④ 主競技場及びその周辺









2017年3月10日(金)撮影